

## 出雲市の将来像

まちづくりの将来像

げんき、やさしさ、しあわせあふれる  
縁結びのまち 出雲

### 将来像実現への基本方策



安全・安心都市の創造



産業・観光都市の創造



環境・文化都市の創造



交流拠点都市の創造



健康・福祉都市の創造



人材育成都市の創造

行財政改革の推進

## ■将来像実現への基本方策



# 安全・安心都市の創造

平成23年(2011)3月11日に発生した国内最大級の東日本大震災とともに、福島第一原子力発電所の被災により未曾有の大災害が発生しました。市民の生命・財産を守り、安全安心を確保することは、市の最も重要な責務です。この震災を契機に、安全安心を第一としたまちづくりの大切さ、地域コミュニティにおける絆づくりの重要性を再認識したところであります。防災体制の一層の充実を図ります。

本市は、島根原子力発電所の立地する松江市の隣接市であり、福島第一原子力発電所事故による避難区域が半径10kmを超える区域に及んだことから、その安全対策については、原子力発電所立地市並の権限が付与される「原子力安全協定」の締結を中国電力(株)に対して強く求めてまいります。さらに、万一の際の避難計画の策定や避難訓練に努めます。

消防・救急体制の充実に努めるとともに、斐伊川・神戸川流域治水事業をはじめとする治



出雲市防災訓練の様子

水、治山事業の推進、上下水道の整備を進め、また、自然災害だけでなく、振り込め詐欺や交通事故など暮らしにおける危機管理について、市民、行政、警察が一体となった防犯活動を強化するなど、より安全で、快適な暮らしを実現する取り組みを推進します。

また、市民に身近で重要な交通機関である、路線バスや一畠電車の運行の確保及び一層の充実に努めます。

- 危機管理体制の強化
- 消防・救急体制の充実・強化
- 治水・治山事業の促進
- 地域生活の安全対策  
(防犯・交通安全、消費者相談)

- バス交通の充実
- 一畠電車への支援



## ■将来像実現への基本方策



# 産業・観光都市の創造

産業振興と雇用の確保は、地域の活性化と発展のための要です。企業の集積や、山陰自動車道、出雲縁結び空港、出雲河下港といった陸・海・空の恵まれた交通基盤を最大限に生かし、積極的な企業誘致活動を展開するとともに、その受け皿となる新たな産業拠点を整備します。

また、環境と調和した産業振興を推進するため、大規模太陽光発電（メガソーラー）、中小水力発電、木質バイオマスなどの新エネルギー関連産業の立地を促進します。

さらに、市内企業の事業拡大や高度化、新製品・新技術開発、企業間交流による新ビジネス創出などを促進するため、異業種連携や产学官交流、企業間ビジネスマッチングなどを支援します。

県内最大の農業産出額を誇る本市は、水稻・野菜・果樹・花き・畜産などにおいて多様なブランド品を持つ産地です。生産基盤の整備と技術開発、生産設備の整備充実による高付加価値化やブランド化を図り、収益性の向上と安全な食の提供に努めます。

森林・林業の振興については、森林の適正な管理を行うため、作業道を整備するとともに、市産材の利用促進に向け、市全体の木材生産及び消費の拡大に努めてまいります。

水産業については、県内屈指の衛生管理型施設を備えた大社水産物荷捌所を拠点に、地産地消の推進など水産振興の取組を積極的に進めるとともに、内水面漁業では、日本有数の

漁獲量をほこるシジミ資源の回復に取り組みます。

さらに“出雲ブランド”的知名度を生かし、市内企業の製品や伝統工芸品の販売促進や販路開拓を後押しするとともに、市場ニーズに応える新たな商品・特産品開発の促進を図ります。また、地場産業の共通課題である後継者や担い手の育成にも努めます。

壮大な出雲神話のロマン、古代から連綿と受け継がれてきた出雲の歴史文化遺産、豊かな自然資源、「縁結び」「神在月」などの出雲を象徴するイメージは、本市の重要な観光資源であり、その価値を国内外にPRしていきます。

観光客の受け入れ態勢については、温泉の活用やホテル立地を促進し、滞在型観光の取り組みを進めるとともに、観光ボランティアガイドの育成、市民あげてのおもてなしの心の醸成などの充実に努めます。また、日本海や宍道湖、斐伊川、緑の山々などを舞台とし、自然の恵みである食文化、豊富な温泉施設、観光レジャー施設、さらには大型イベントや地域の祭り、伝統芸能など出雲の魅力を効果的に組み合わせることで、多様な観光ニーズに対応した、より戦略的な観光メニューの提案、情報発信に努めます。そして、継続的な賑わい創出につながる観光地づくりを進め、観光を基幹産業の一つに育成します。

- 企業誘致の促進
- 産業支援体制の強化
- 雇用対策
- 新たな販路拡大・市場拡大支援
- 商業・サービス業の振興
- 製造業(工業)の活性化



## ■将来像実現への基本方策



### 環境・文化都市の創造

地球温暖化に対応するため、市民、事業者、行政がそれぞれの役割を果たしながら連携、協働して、省エネルギー化の促進、新エネルギーの普及啓発などを計画的に進め、地球にやさしい、持続可能な低炭素社会の実現を図ります。

そのため、大規模太陽光発電所の立地を進めるとともに、木質バイオマス資源を活用したボイラーや小水力発電の導入を進めるなど、地域資源を活用した新エネルギーの導入・利用を促進します。また、エネルギーの安定確保と環境保全に対する意識の高揚を図るため、家庭用太陽光発電の導入を促進し、二酸化炭素の排出削減を進めます。

また、ごみの減量化、資源化、リサイクルのための施策を実施することにより、環境にやさしい循環型社会の構築をめざします。

出雲エネルギーセンターについては、耐用年数などを考慮しながら、次期可燃ごみ処理施設の調査検討、整備を進めます。

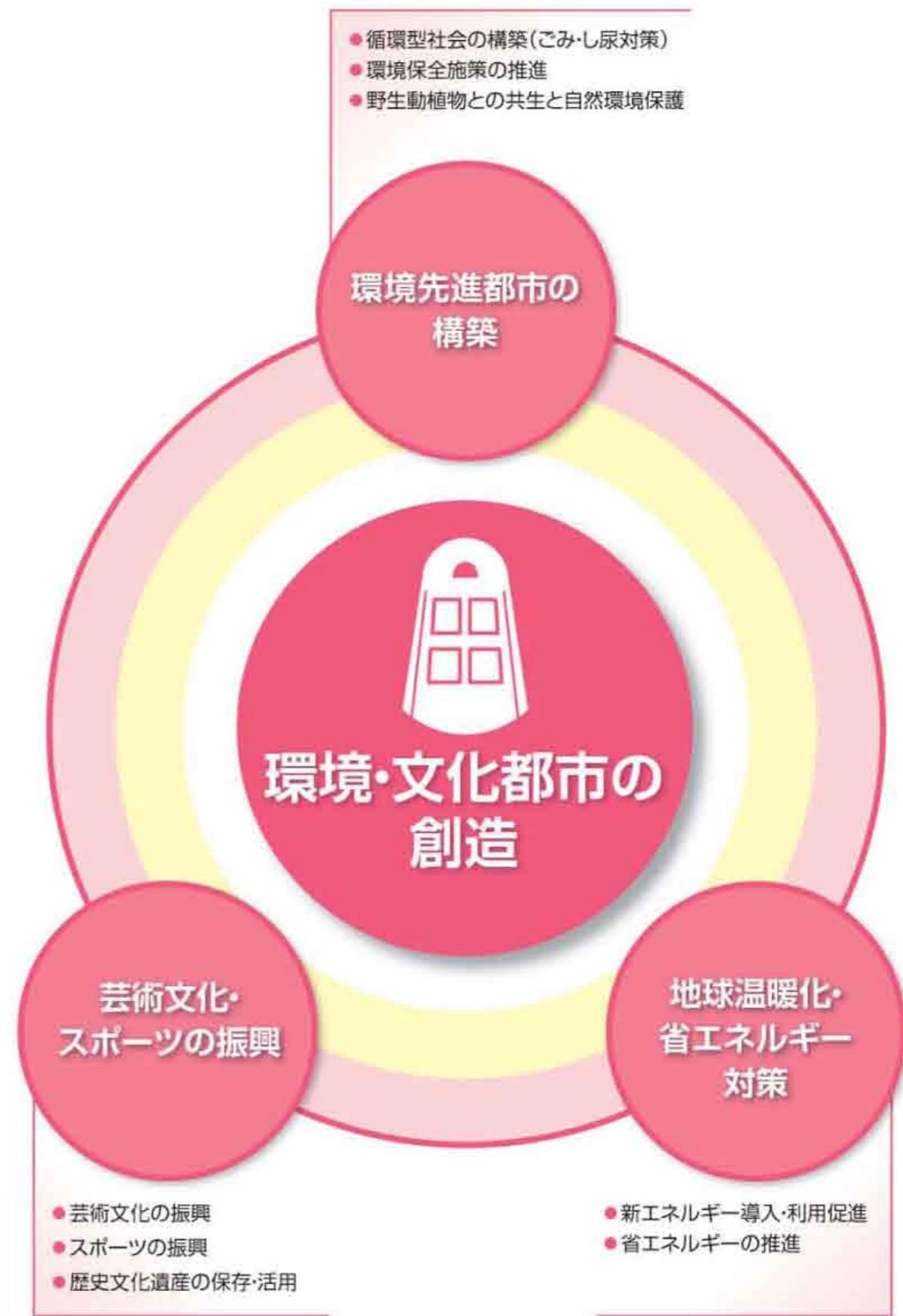
国際保護鳥トキの分散飼育においては、引き続き、国のトキ野生復帰事業に貢献するとともに、トキをシンボルとした環境や自然保護

に対する意識の高揚を図ります。

芸術文化の振興については、鑑賞機会、発表機会の充実や出雲芸術アカデミーなどを通じて芸術文化に接する機会の提供に努め、市民の積極的な参加促進を図ります。

スポーツの振興については、市内の特色あるスポーツ施設の有効活用を図るとともに、全国トップレベルのチームのキャンプや強化合宿、大会の誘致を図ります。また、各種スポーツ大会や教室等を開催するとともに、市民の健康増進や体力向上はもとより、市民ニーズにあったスポーツ施策の推進と環境整備に努めます。

歴史文化遺産の保存活用については、出雲弥生の森博物館を拠点とし、荒神谷博物館と連携しながら、歴史資料の収集に努め、文化財調査・研究の成果を情報発信し、歴史学習の機会を提供します。



## ■将来像実現への基本方策



# 交流拠点都市の創造

環日本海交流の玄関口、宍道湖・中海圏域の中心都市としてふさわしい機能的で活力に満ちた都市空間を形成し、人・物・文化・スポーツ・産業・観光など多様な交流の拠点となる都市環境づくりを進めます。

中心市街地の整備については、出雲・平田・斐川地域において市街地内の幹線道路を計画的に整備促進し、都市基盤整備を図ります。

出雲大社周辺については、県内外からの観光客のまち歩きにふさわしい歴史回廊として、神門通りの整備と関連する道路や街並み環境を整備します。

都市交流の基盤となる広域交通網の整備については、山陰自動車道をはじめとする高速道路ネットワークの早期構築と、宍道湖・中海圏域の高規格な8の字ルートを形成する境港出雲道路の整備を促進し、他圏域との交流の拡大を図ります。また、市内各地域間の交流促進や市の一体的かつ均衡ある発展を図るとともに、大規模災害時の避難道路として複数

ルートを確保するため幹線道路の整備を進めます。

交通基盤の整備については、鉄道の高速化の推進や海運による物流拠点機能の強化を図るとともに、災害時に対応する救援活動の拠点として出雲河下港の整備を促進します。

出雲縁結び空港は、空の玄関口として周辺の住環境に配慮しつつ整備促進を進めるとともに、国内路線網の充実と利用者の利便性向上により、産業振興・観光振興・文化交流の促進を図ります。

国際交流については、国際化社会に対応できる人材の育成と多文化との共生の地域づくりをめざし、市民団体と連携し多様な活動を推進します。

- 中心市街地の整備
- 東部都市拠点の整備

- 高速道路等の整備促進
- 国道改良及び交通安全施設等整備
- 出雲河下港の利用及び整備促進
- 出雲縁結び空港の整備・利用促進
- 鉄道の整備促進

## 都市機能の充実

## 広域交通網の整備

## 広域連携・ 他圏域との交流

## 交流拠点都市の 創造

## 地域内 幹線道路の整備

- 広域連携の推進
- 国際・国内交流活動の推進

- 県道整備及び交通安全施設等整備
- 市道整備及び交通安全施設等整備

## ■将来像実現への基本方策



### 健康・福祉都市の創造

市立総合医療センター、県立中央病院、島根大学医学部、同附属病院、県立大学出雲キャンパスなどの県内有数の医療機関・医療系教育機関、健康増進施設、福祉施設が集積した優位性を生かし、保健、医療、福祉の連携により、健康で、いきいきと暮らせるまちづくりをめざします。

まず、市内のどこでも安心して暮らせる医療体制を構築するために、総合医療センターの医療リハビリ体制の充実を図るとともに地域医療機関とのネットワーク化を推進し、きめ細やかで切れ目のない診療体制の充実に努めます。

また、市民の生涯を通じた心と体の健康づくりを推進するため、健康増進施設の活用を図るとともに、健康診査や健康相談、食育によるまちづくりの推進などにより、各種保健施策や疾病予防対策、健康づくりに関する意識啓発などの充実に努めます。

一方、地域で支えあう、住民主体の「共に生き、共に支える社会」の実現のため、住み慣れた地域で健康で、安らぎをもって暮らすことができるよう、地域全体で高齢者の日常生活を支える体制づくりを進めるほか、高齢者の社会参加活動や健康づくりを支援します。

さらに、障がい者が住み慣れた地域で、自らの意思のもとに、生きがいをもって自立した生活を送ることができるよう、福祉サービスや身近な相談・支援体制の充実を図り、だれもが安心して暮らせる体制づくりや社会参加の促進に努めます。



- 母子保健施策の推進
- 健康づくりの推進
- 保健・健康増進施設の整備・活用

- 地域福祉施策の推進
- 障がい者(児)施策の充実
- 高齢者施策の充実
- 医療保険制度の安定運営



## ■将来像実現への基本方策

# 人材育成都市の創造

少子化、高齢化に加え、人口減少社会を迎え、今までの社会構造が大きく変化する中、子育て支援体制の充実や特色ある学校教育により、次代を担う人材の育成をめざします。

だれもが安心して子どもを生み育てられ、また、子どもたちが心豊かに、健やかに成長することができる環境づくりを推進するため、出産、育児に関する相談支援体制の整備や多様化するニーズに対応した子育て支援サービス、保育サービスなどの充実に努めます。

確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育む学校教育を充実させるとともに、出雲科学館での理科学習や出雲弥生の森博物館を活用した歴史学習など、創意工夫による特色のある教育を実践します。

さらに、特別な支援を必要とする児童生徒や障がいの多様化・重複化・重度化傾向への対応、学校への不適応や問題行動などの困難を抱える児童生徒への支援など、子どもたち一人ひとりを大切にする教育の実践や、学校の適正規模化を図ることにより、子どもたちにより



望ましい教育環境の整備に努めます。

また、\*ニート、ひきこもりなど困難を抱える子ども・若者が、社会生活を円滑に営むことができるよう、育成・支援します。

生涯学習については、市民の学ぶ意欲と地域・社会のニーズに応える多様な学習機会を提供し、生涯学習拠点の整備を進めます。図書館については、市内7館のネットワークを有効に活用し、地域の情報拠点としての機能の充実に努めます。

同和問題をはじめとするすべての差別を解消するために、人権・同和教育の更なる充実を図り、互いの人権を尊重しあう地域社会の実現に努めます。

また、性別にとらわれずそれぞれの力を生かし、いきいきと暮らすことのできる地域社会をつくるため、男女共同参画の取り組みを推進するとともに、\*ワーク・ライフ・バランスを図るように啓発に努めます。

町内会、自治会などのコミュニティ活動、NPO、ボランティア活動などの市民活動を積極的に推進し、多様化・高度化する住民ニーズや地域課題の解決に取り組みます。

市民が主役のまちづくりの実現のため、広報紙、ホームページ、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、新聞などさまざまな媒体により情報を提供するとともに、市民の声を直接聞く広聴機能の充実を図ります。

\*ニートとは、「仕事につかず、就学もしていないし、就労のための訓練も受けていない人」のことをいいます。

\*ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」の意味で、誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発等、様々な活動について自ら希望するバランスで展開できる状態を言います。

- 子育てに関する相談支援体制の充実
- 子育て支援サービスの充実
- 保育サービスの充実
- 子ども・若者の育成・支援

- 人権施策の推進
- 男女共同参画の推進
- いじめや虐待の防止とDV対策

## 子ども・若者の育成・支援

## 人材育成都市の創造

## 地域を支えるひとづくりと住民参画の推進

- 生涯学習の推進
- コミュニティ活動と市民協働の推進
- 定住対策の推進
- 広報広聴機能の充実と市民参画の推進

## 生きる力と夢を育む教育体制の充実

- 教育行政の充実
- 幼児教育の充実
- 義務教育の充実
- 学校給食の充実
- 学校施設の整備
- 高等学校・大学等との連携



## 行財政改革の推進

**持続可能な財政運営をめざします。**

- 行政の効率化とスリム化
- 借金体质の改善

将来像実現のための基本方策、戦略プロジェクトを着実に推進するためには、財政的裏付けが必要になり、これまで以上に行財政改革への取り組みを進めていく必要があります。

本市においては、平成17年3月の合併前後からの集中投資により起債(借金)の残高が急激に増加しており、投資的経費の抑制により平成21年度からようやく若干の減少傾向に転じたものの、平成23年10月斐川町との合併により公債費は更に増加し平成25年度にピークを迎え、その後も高止まりの状況が続く見込みです。

財政の健全化を表す指標を見ると、斐川町との合併後において、<sup>\*</sup>実質公債費比率、<sup>\*</sup>将来負担比率ともに早期健全化基準には至らないものの、平成23年度の数値はそれぞれ21.4%、237.7%と県内8市で最も悪い状況で、起債(借金)の抑制に努めなければ、今後更に悪化していくことが予測されます。

地方交付税については歳入の約3割を占めていますが、<sup>\*</sup>合併算定替による特別加算が合併後10年を経過する平成27年度から段階的に減額され、平成33年には、50億円近い一般財源が減少する見込みとなっています。

加えて、近年の少子高齢化の進行などによる社会保障費の増加にも対応せざるを得ない状況があります。

こうした非常に厳しい状況から脱却するためには、聖域を設けず徹底した行財政改革に取り組む一方、将来を見越した財政計画を策定することにより、次世代に高負担を強いることのない持続可能な財政運営をめざさなければなりません。

具体的には、行財政改革大綱及び実施計画に基づいて、公共施設の統廃合と再配置、職員の定員管理と給与の適正化、公債費及び起債残高の抑制など、着実かつ実効性のある改革を実施し、合併効果を最大限発揮し行政の効率化、スリム化を図っていきます。

※合併算定替

合併市町村に係る普通交付税の算定方法の特例。合併した年度及びこれに続く10年間(斐川町との合併は5年間)は、合併前の旧市町村が存続した場合に算定される普通交付税の合算額が保障されます。さらにそれに続く5年間は激変緩和措置があり段階的に減額になります。

※実質公債費比率

借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示しています。早期健全化基準は25%です。

※将来負担比率

将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示します。早期健全化基準は350%です。

※早期健全化基準

地方公共団体の財政の健全化に関する基準です。財政健全化法で規定した実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率での基準値のいずれかを超過した地方公共団体は、財政健全化団体として自主的・計画的な財政の健全化が求められます。



## ■平成33年(2021)の目標人口

ここ数年の間に、日本の人口は減少に転じ、初めて継続的な人口減少社会に突入したと言われています。平成24年(2012)においては、前年からの人口減少数が26万人を超え、過去最大の減少数を記録するとともに、毎年、減少数が増え続けるものと予想されています。

国立社会保障・人口問題研究所が推計した平成32年の日本の将来推計人口は、約1億2,410万人とされ、平成22年と比較し約400万人が減少すると予想されています。

本市においても、同研究所の推計によれば、平成32年(2020)の人口は、約16万3千人となり、平成22年(2010)の人口から約8千人が減少すると予想されています。

しかしながら、本市においては、子育て支援や定住対策の充実、産業の振興と企業誘致による雇用創出、魅力あふれる出雲ブランドの情報発信や歴史文化遺産を生かした観光振興などに取り組み、「げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち 出雲」を実現することで、平成33年(2021)は、人口17万人台を維持することを目指します。また、特に人口減少や少子・高齢化が著しい地域については、地域コミュニティの活力が維持できるよう重点的な定住、人口減少対策を講じます。

出雲市の人団推移と将来推計人口、目標人口

(単位:人)

平成33年(2021)目標人口

17万人台

(住民基本台帳人口)



※平成22年までは国勢調査、平成27年は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値（平成20年12月）

※平成33年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所による平成32年と平成37年の推計値を基に算出した。

※（ ）内は、各年の4月1日現在の住民基本台帳の人数



## ■平成33年(2021)の目標交流人口

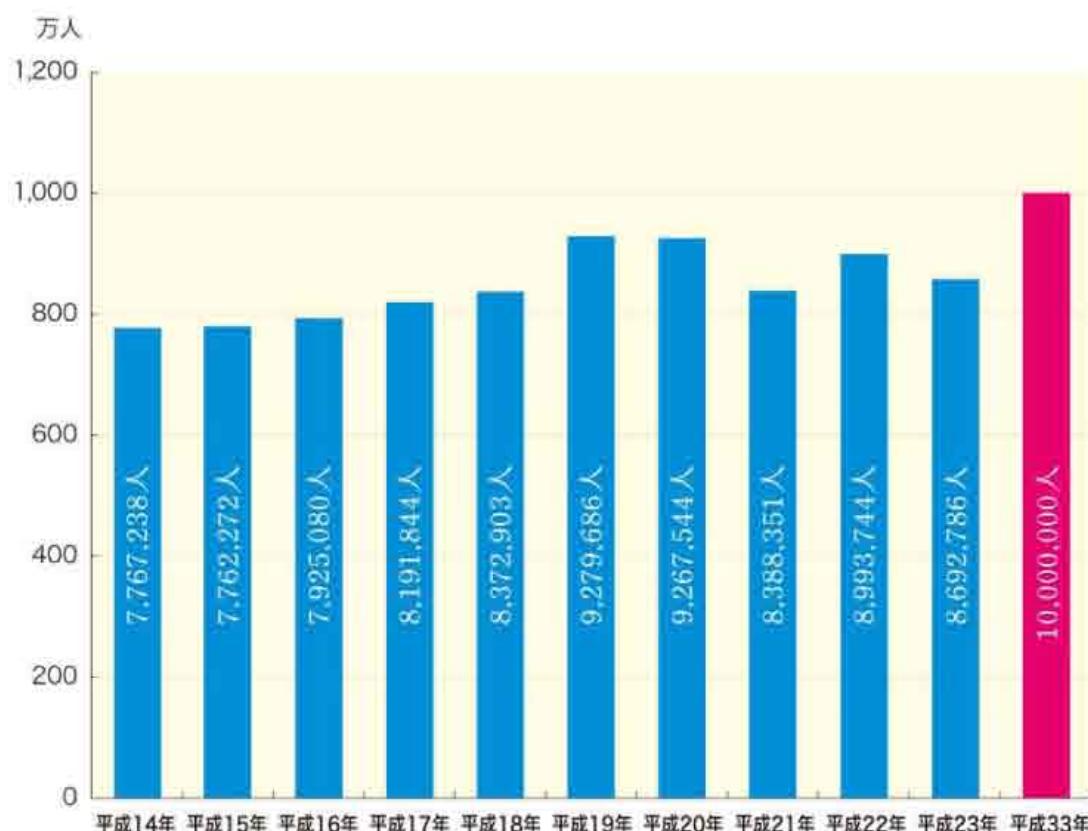
本市は、古くから「神話のふるさと」として全国に知られるとともに、多くの歴史文化遺産、豊かな自然とそれに育まれた様々な農林水産物や出雲そばなどの特産品にも恵まれています。

縁結びで親しまれている出雲大社では、平成25年5月に60年に一度の「平成の大遷宮」により全国から多くの参拝客、観光客が訪れることが期待され、表参道の神門通りの整備も進められるとともに、新たな店舗も数多く出店し門前町の賑わいが創出されています。

この遷宮を契機に、広域的な観光ネットワーク化を進め、新たな観光ルートを提供するなど、本市の魅力的な観光資源を全国に発信し、心のこもったおもてなしの実践により誘客の拡大を図ります。

また、出雲のブランド開発をより一層進めるとともに、芸術文化及びスポーツなどのイベントの魅力を高めるなど、国内外への情報発信に努め、全国から多くの人が何度も訪れたくなるまちをめざし、平成33年(2021)には、交流人口1,000万人の達成を目指します。

出雲市の交流人口の推移と目標交流人口 [資料：島根県観光動態調査結果表]



- 神門通りの整備
- 観光資源の全国発信
- 門前町の賑わい創出
- おもてなしの実践
- 新たな観光ルートの提供
- 出雲ブランドの開発

## ■ 土地利用の基本指針

本市は、豊かな自然の中にはて、山陰自動車道、街路事業、治水対策などの社会資本整備が着々と進展しています。

今後の土地利用にあたっては、その地域性や形状を踏まえつつ、「げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち 出雲」を実現するため、次の視点に立って、計画的な整備、利用、保全を図ります。

### (1) 都市拠点

本市の発展を支え、宍道湖・中海圏域の中心都市としての機能を發揮するために、都市計画区域における用途地域を「都市拠点」として位置付けます。

各地域それぞれの地域特性を生かし、官公署、商工業・観光・サービス業などの産業集積と良好な住宅環境の立地、形成を誘導するため、その基盤となる街路、河川、下水道などの都市基盤整備を進めます。こうした都市拠点を中心に活力あるまちを創造するため、今後、状況変化に応じて用途地域の拡大を視野に入れた対処が必要です。

- **中核都市拠点**…出雲地域の用途地域(出雲長浜工業団地を除く、拡大予定地域を含む)  
広域的な都市拠点として、商業、行政、都市居住機能、医療・福祉、文化、教育などの様々な高次都市機能が集積し、発展の中核となる市街地
  - **東部都市拠点**…平田地域の用途地域  
中核都市拠点に次ぐ都市拠点として、都市機能が集積し、都市の発展を支える市街地
  - **観光都市拠点**…大社地域の用途地域  
観光・文化・交流機能をはじめ、都市機能が集積し、観光都市づくりの中核となる市街地
  - **産業都市拠点**…斐川地域の用途地域、出雲長浜工業団地  
産業機能をはじめ、都市機能が集積し、産業都市づくりの中核となる市街地

## (2)周辺市街地

用途地域周辺にあって、幹線道路などの都市基盤整備や宅地化が進展しつつある「周辺市街地」については、田園環境の保全を基本として、適切な宅地化を計画的に誘導するとともに、新たな産業集積と農商工にわたる産業、ビジネスの一層の活性化に向け、秩序ある用地の活用に努めます。

### (3) 田園緑地

出雲平野に広がる「田園緑地」については、農業生産の場として農用地としての土地利用を基本に、農地の保全整備、営農環境の充実を図るとともに、出雲らしい田園景観と豊かな自然が織り成す美しい景観の保全に努めます。

#### (4) 山間綠地

「山間緑地」については、国土保全、土砂災害防止、水源かん養、地球温暖化防止など様々な公益的機能をもっています。森林・自然環境の保全と育成を前提とし、農山漁村の定住環境の整備や森林、海洋、温泉などの資源を生かした保養空間の活用を図ります。

